

〔6〕 高原町小体連 （学校数 4校 385名）

【研究部のあゆみ】

1 研究主題・副題

運動の楽しさに触れ、進んで体力の向上に取り組もうとする児童の育成
～高原町スポーツフェスタの取組を通して～

2 研究内容

- 令和9年の宮崎国スポ・障スポ大会の開催に向けて、大会イメージソングのダンス体験や高原町内で競技が行われるアーチェリーの体験、車いすバスケット体験を通して、国スポ・障スポへの理解と、様々なスポーツへの興味・関心を高める。
- 体力や技能の程度、性別や障がいの有無等に関わらない多様な運動やスポーツの楽しさを味わい、豊かなスポーツライフの実現に向けた、生涯にわたって運動に親しむ素地を養う。
- 令和8年度の統合に向けて、高原町内の5・6年生の交流を目的に、スポーツを通して親睦を深める。

3 研究の実際

（1）日本のひなた宮崎国スポ・障スポ大会イメージソングダンス出前授業

宮崎国スポ・障スポ事務局員の指導のもと、「ひなたのチカラ」ダンス授業を実施した。ウォーミングアップをして振り付けを覚えた後、高原町内で開催されるアーチェリー競技について、タブレットPCを用いて特徴や歴史を調べた。後半は、アーチェリーの振り付けを取り入れ、各グループでダンス作りに取り組んだ（写真1）。最後は、宮崎県シンボルキャラクター「みやざき犬」が登場し、一緒にダンスを踊ることができた（写真2）。児童からは、「ダンスを通して、みんながひとつになれた。」「ダンスを楽しむことができた。」のような意見があり、運動の楽しさに触れることができた。



写真1 グループ活動の様子



写真2 ダンスのまとめの様子

（2）アーチェリー体験

宮崎県アーチェリー協会の指導のもと、アーチェリー体験を行った。5人の指導者が児童一人ひとりにアーチェリーの持ち方や弦の引き方を教え、一人3射ずつ放つことができた（写真3）。児童からは、「思った以上にアーチェリーが重くて驚いた。」「見ているときは簡単そうに見えたが、実際にやってみると的に当てるのがとても難しかった。」などの意見があり、実際に体験することで、スポーツへのイメージが変わり、見方や考え方が広まっている様子が見られた（写真4）。



写真3 アーチェリー体験の様子①



写真④ アーチェリー体験の様子②

(3) 車いすバスケットボール体験

都城車いすスポーツクラブの指導のもと、車いすバスケットボール体験を行った（写真5）。一人一台ずつ競技用車いすが準備されており、班毎に10分間ずつ体験した。はじめに車椅子の操作の仕方を学び、走行練習をした後、後半はバスケットボールを持ってドリブルやシュートを体験した。児童からは、「初めは操作が難しく恐怖心もあったが、徐々にコツをつかみ自在に操作できるようになると楽しかった。」「障がいを抱えた方が普段どれだけ大変な思いで生活されているかがよく分かった」など、障がい者スポーツの体験を通して、障がいを抱える方々の思いにまで考えを深める児童の様子も見られた（写真6）。



写真5 車いすバスケットボール体験の様子①



写真6 車いすバスケットボール体験の様子②

4 成果と課題

- 大会イメージソングのダンス体験や高原町内で競技が行われるアーチェリーの体験、車いすバスケット体験を通して、国スポ・障スポへの理解と、様々なスポーツへの興味・関心を高め、体力や技能の程度、性別や障がいの有無等に関わらない多様な運動やスポーツの楽しさを味わうことができた。
- 実施後の児童アンケートによると、「高原町スポーツフェスタを体験して、これからも運動に親しみたいと思いますか。」の質問に対して、8割以上の児童が、「とてもそう思う・そう思う」と回答していた。豊かなスポーツライフの実現に向けて、生涯にわたって運動に親しもうとする素地を育むことができた。
- 高原町スポーツフェスタで得た経験から、自身の運動習慣やスポーツとの向き合い方を見つめ直し、体力の向上という意識にまでつなげていく必要がある。